

令和6年度 東京都立竹台高等学校 学校経営計画

東京都立竹台高等学校長

福島 泰直

1 目指す学校像

(1) 目指す学校

「共に学び 共に進む」の校訓のもと、東京都教育委員会の目標に基づき、知・徳・体のバランスの取れた教育を行い、生徒の個性や能力を磨き、生徒が自らの進路や在り方生き方について自己実現を図れるように支援し、変化の激しいこれからの社会を生き抜くことのできる人間を育成する。

(2) 教育目標

- ① 人間性豊かで、互いの人格を尊重し、社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- ② 人権尊重の理念を基盤に、生徒が高い「規範意識」をもち、「感謝・礼儀・思いやり」を励行する。
- ③ 確かな学力を向上させ、自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間を育てる。
- ④ 特別活動、部活動の振興を通して、生徒の心身を鍛える。
- ⑤ 生命尊重と安全を常に心がける人間を育てる。

(3) スクールミッション

家庭と連携した生活指導による規律ある学校生活と家庭における自主学習習慣の確立を図ることで学力を向上し、地域活動への参加などの特色ある教育活動を通じて、心身を鍛え、人権尊重の理念を基盤に高い規範意識をもって社会の発展に貢献する、異なる文化や価値観の先に新たな価値を創造する人材を育成します。

(4) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

- ア) 課題解決 ～学びを基に、身に付けた知識・技能を活用できる～
- イ) 表現 ～自らの考えを、適切な方法によって伝え合う～
- ウ) 社会貢献 ～人権意識を身に付け、自他の違いを尊重して協働できる～
- エ) 行動 ～「自助」「共助」の精神を持つ、社会的課題に関心を持つ～
- オ) 心身の健康 ～生涯に渡り体力向上のための運動を行おうとする～

② カリキュラム・ポリシー

- ア) 知・徳・体のバランスの取れた教育
- イ) 全教科による学習意欲の喚起、学習習慣の確立、読書活動の推進、言語活動の充実
- ウ) 特別活動を通じ自主性創造性を育成
- エ) 系統的なキャリア教育による自己実現の支援
- オ) 良識ある行動と社会的責任の自覚

③ アドミッション・ポリシー

- ア) 本校の特色や目標を理解して、入学を強く希望する生徒
- イ) 学習において、どの教科も真面目に取り組み、授業に集中し、努力を惜しまず、勉学に励む生徒
- ウ) 特別活動において、生徒会活動、ボランティア活動、地域貢献等に積極的に取り組む生徒
- エ) 基本的生活習慣を身に付け、ルールを守り、目標に向かって一生懸命に努力する生徒
- オ) 他者に感謝する心、他者を思いやる心を持った生徒

2 中期的目標と方策

(1) 学習指導の充実

新学習指導要領の全学年での実施により、観点別学習状況の評価を基に、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を教員が的確に捉え、指導の改善を図るとともに、生徒自身も自らの学びを振り返り、次の学びの改善につなげていくという、指導と評価の一体化による質の高い教育の実現に取り組む。そのためには、観点別学習状況の評価の在り方が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の見直しと一貫性をもった形で観点別学習状況の評価づくりを進めることが求められる。引き続き教科会、校内研修会等において観点別学習状況の評価について基準の統一化、教員の指導力向上を図りながら、生徒が主体的に学習に取り組む校内環境づくりを行う。教科内及び教科間の横断的連携により、学びを深め、新たな視点で物事をとらえる経験を通じて、生徒の興味・関心を引き出す。主体的・対話的・深い学びの授業実践を組織的に行うことにより、主体的に学習に取り組む態度を育成する。ICTを活用した授業実践を全教員が行い、すぐにオンライン授業が行える体制づくりを推進するとともに、校内のデジタル化を推進し、情報化社会に対応できる、知識、態度、活用能力を高める。持続可能な社会づくりの視点で、社会における様々な問題について、各教科・総合的な探究の時間・特別活動・部活動等のあらゆる教育活動を通じて、学校全体で課題解決に取り組む。学力向上研究校として、授業時数の確保、授業規律の向上、補習・講習会の充実、朝学習の充実、放課後の補習および個別学習指導の充実、家庭学習時間の定着などにより、入学年次からの学習習慣と基礎・基本の定着を図り、進学・就職に向けて社会に通用する学力を身に付けることを目指す。在京外国人生徒への日本語指導については、外部の専門家である日本語指導員や高大連携の協定を結んでいる明海大学の教員、学生等からの人的支援を受け、指導の充実を図るとともに、7時間目、8時間目として学校設定科目による授業を設置して単位を取得できるようにしたり、部活動において在京外国人生徒とその他の生徒が交流を図りながら、互いに日本語、外国語を学習することにより、日本語指導の充実を図る。

(2) 進路指導の充実

入学から卒業までに取り組まなければならないことを、キャリア教育の全体計画として作成し、その充実、実現を図るとともに、生徒が自己の在り方・生き方を考え、家族や友人、教員とのコミュニケーションを図りながら、自らの進路を主体的に決めることができるようにする。進路指導部と各学年が連携しながら、系統的かつ組織的な進路指導を行い、個々の生徒の進路意識や取り組み状況を確認しながら、適切な指導、支援を行い、進路目標の達成を目指す。保護者と細かく連絡を取り合いながら、生徒に安易な妥協をさせないことに注力し、第一志望への進路指導を引き続き行い、キャリア教育・学習活動・生活指導の更なる向上と連携を図る。

(3) 生活指導の充実

規律ある自由の意味を生徒に正しく理解させ、ルールを守る、マナーを守る行動が、自主的に取れるよう、規則正しい生活習慣の確実な定着、規範意識の醸成に取り組む。さらに、教員間の認識の違いが、生徒を混乱させることがないように、遅刻指導、服装指導、頭髮指導等において、全教職員が共通理解を図り、連携・協力して指導を行う。また、様々な角度から生徒を捉え、生徒理解を深め、全教員がセンサーを働かせることで、生徒の小さな変化も気づくことができる体制を構築し、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう指導の充実を図る。

(4) 募集・広報活動の充実

本校の特色ある教育活動について、ホームページや学校案内、竹台通信等を通じて積極的に発信し、情報提供を行い、安心、安全で、校訓の精神である「共に学び 共に進む」を实践する学校であることをアピールする。また、学校説明会、学校見学会、授業公開、出前授業、中学校訪問、塾訪問等を全教員が協力し、組織的、計画的、戦略的な募集活動を積極的に行うことにより、中学生が本校を強く志望するようになるよう、広く効果的な募集活動、広報活動を行う。

(5) 健康・安全の充実

生徒の健康の保持・増進及び体力の向上を図るための環境整備を推進する。引き続き新型コロナウイルス感染

症やインフルエンザ等の感染対策を徹底し、校内における感染拡大防止を図る。友人関係や家族関係など、様々な問題を抱え、保健室を訪れる生徒が増え続けており、担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携しながら、生徒一人ひとりに寄り添い、学校が安心、安全な居場所となるよう取り組む。さらに、全教員間での情報共有のため、全校でのケース会議、研修を行い、個々の教員の指導力を高める体制づくりを継続的に行うとともに、生徒が校内で心身を休めたり、悩みを相談することが可能な居場所の設定を進める。災害から「自分を守る、家族を守る、友人を守る」ために、荒川区、消防署、水道局、町会と連携した防災訓練を実施し、災害に対する体験的、実践的な防災教育による生徒の防災意識の向上、防災体制の構築を推進する。

(6) 特別活動・部活動

ホームルーム活動や生徒会活動及び学校行事等を通じて、集団を学び、卒業後に社会の一員として、よりよい社会の発展に貢献しようとする強い自覚と行動力を育成する。また、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを継続し、部活動の一層の活性化を図り、学校生活の充実と生徒が自らの可能性を見つけ、その伸長を図る強い意志を持ち続けるようにする。

(7) 地域連携の充実

学校開放や地域の行事等への参加を通じて、地域との連携を深め、学校の教育活動を地域に理解してもらうよう様々な広報活動を行い、開かれた学校づくりを推進する。

(8) 学校経営・組織体制の充実

管理運営規定に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進し、校務分掌内及び分掌間の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。学校運営連絡協議会の円滑な実施。また、ライフ・ワーク・バランスの充実を図り、合理的・効率的に業務を行うために、学校改革を推進する。

3 今年度の目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

教育目標と目指す学校の具現化に向け、全教職員の協働体制（＝チーム竹台）を一層推進し、組織的な校務運営を行う。これまでの教育活動の成果と課題を検証し、更なる充実を図るとともに、改善・改革を推進する。Society 5.0 の目指す社会の実現に向けて、「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ」の価値を大切にした教育活動を推進する。そのために基礎学力、基本的生活習慣の定着を図り、個々の生徒が自らの個性や能力に気付き、主体的に学ぶ力を伸ばし、他者との関わりを通じて、自ら課題を発見し、解決方法を考え、判断し、行動する探究的な活動を身に付けるとともに、かけがえのない生命を尊重し、他者の個性や考えを認め、理解することで多様な人々とともに生きる社会の実現を目指す。

【学習指導の充実】

- ① 定期的に教科会を開催し、授業の工夫と充実を図るとともに、教材、授業内容、定期考査の共通化を図り、教科全体として授業改善と教科全体の授業力向上に取り組む。
- ② 新学習指導要領に対応した、観点別学習評価の基準を学校として統一し、各教科・科目ごとに設定する。
- ③ ICT機器の積極的活用等、デジタル技術を活用した教育を推進し、常にすぐにオンライン授業を実施できる体制を確立し、インターネット等からの情報リテラシーやその活用力を高める。
- ④ 主体的・対話的・深い学びによる授業を通して、生徒の興味・関心を引き出し、自ら意欲的に学習に取り組ませる。
- ⑤ 習熟度別授業、理系・文系の選択科目など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を図る。
- ⑥ 全学年、始業前に朝学習の時間を設け、基礎的な学習内容、基本的生活習慣の定着、学習意欲の向上を図る。

- ⑦在京外国人生徒への日本語習熟に向け、7時間目、8時間目の学校設定科目での授業、取出し授業や放課後日本語指導の充実を図る。また、定期的に日本語習熟度を含めた、学習到達度の把握と指導内容の確認のため在京委員会を開催し、現状分析、取組方法の改善を行う。
- ⑧オンライン授業実施のための学校環境の整備と円滑な実施のための体制づくりを推進する。
- ⑨生徒の言語に関する関心を高めさせ、生徒の主體的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させるために、学校図書館の積極的活用やビブリオバトル校内予選等の行事を充実させる。
- ⑩放課後学習のための自主学習室の活用、進学対策講習、夏期・冬期講習、休日学習部活動（まな部）などへの参加者を拡大させ、学力向上への学習指導を行う。
- ⑪生徒の学習意欲と進路決定率を高めるために、教科を中心として、英語検定や漢字検定などの資格取得に向けた指導を実施する。
- ⑫近年の急激な社会変化に対応すべく、主権者教育、消費者教育等を推進する。
- ⑬学力向上研究校として、外部人材を積極的に活用しながら、学習状況の分析、評価による修正を行いながら、基礎学力の定着・向上を図る。

【進路指導の充実】

- ①キャリア教育の全体計画に基づき、将来設計に基づいた進路指導を行い、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意思と責任で選択決定していく能力や態度を育成する。
- ②的確な進路情報の提供、生徒の学力分析、面談の実施、講演会や説明会等の進路行事の充実、進路部と学年担任との連携などを通して、学校全体が一体となった組織的な進路指導を進める。
- ③生徒が自己の適正を理解した上で主體的に進路を考え、将来の進路を選択、決定すると共に社会に適応できる力を育成するために、自校作成の「進路の手引き」を活用し、キャリア教育の一層の充実を図る。
- ④生徒に望ましい勤労観、職業観を育成するため、「人間と社会」等において、外部の専門家やNPO法人等の関係諸機関と連携した体験活動やボランティア活動を行い、探究活動を通じて、自分たちで解答を見つけ出し、行動する力の育成を図りながら、3年間を見通した進路啓発を積極的に推進していく。
- ⑤放課後等の自主学習時間の確保や長期休業期間中の講習など、希望する進路実現に向けた環境や指導を、組織的・計画的に行い、生徒の学習意欲を啓発し、進路実現に向けた学力を向上させる。
- ⑥教員と生徒、教員と保護者間の連絡方法として、C l a s s iを活用し、生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを充実し、個々の生徒の進路希望に対応した進路実現を図る。

【生活指導の充実】

- ①規律ある自由を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し、決定し、実行する、自己指導能力を高める指導を行う。
- ②校門指導、ホームルーム指導、授業開始時の指導などを通じて、遅刻防止指導や頭髮・服装・身だしなみ（ピアス・化粧）等の指導を、全教職員が統一した基準で組織的に取り組む。また、不審者侵入等による盗難被害等を防ぐために、貴重品管理の指導を徹底するとともに、校内巡回を実施する。
- ③授業規律の一環として、チャイムと同時に授業を開始。授業に不要なものは机上に置かせない指導をする。
- ④体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進する。
- ⑤セーフティー教室等を通じて、SNSの正しい利用、薬物乱用防止、問題行動防止、犯罪被害防止などの指導を充実させる。
- ⑥自転車安全指導、通学マナー指導、ヘルメット着用を、家庭・地域・関係機関との連携を図り指導する。

【募集・広報活動の充実】

- ①学校説明会、学校見学会、授業公開などの充実を図り、中学校訪問や外部での学校説明会等にも参加しながら本校の特色をわかりやすく伝え、入学者選抜において本校への入学を強く希望し、応募する者の拡大を図る。
- ②在校生のアンケートを分析し、結果に基づいて、募集活動を工夫し、本校の特色や教育の成果を広く都民や中

学生等にPRしていく。

③中学校訪問、出前授業、学校説明等の募集活動を全教職員で取り組む。

④本校の特色ある教育活動や部活動等について、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、外部に積極的に情報発信を行う。

【健康・安全の充実】

①学校医と連携し学校保健委員会を充実させ、新型インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症への対応を徹底し、全教職員が情報を共有し、生徒への適切な指導を行い、感染症拡大を防止する。

②生徒の体力向上を目指し「TOKO ACTIVE PLAN for student」を参考に、質の高い授業実践、運動習慣の確立・定着、運動部活動の推進を図る。

③スクールカウンセラーによる、新入生全員を対象とした個別面談を実施し、生徒が抱える悩みの発見、問題行動の未然防止や生活状況の的確な把握により、ホームルーム担任、養護教諭等が連携したカウンセリング体制を充実させる。特に特別な支援を必要とする生徒に対しては、必要なサポート体制を迅速に構築する。

④発達障害等教育相談を必要とする生徒に対するケース会議を全教員で実施するとともに、教員の理解推進を図るため校内研修を実施し、指導力を向上させる。

⑤命の大切さの指導、SOSの出し方に関する教育等を行うことにより、自殺予防等に関する取り組みを徹底する。

⑥食物アレルギー等の対応が必要な生徒情報をケース会議により、全教員で共有するとともに、アレルギー疾患対応研修を実施し、緊急時の対応に備える。

⑦防災教育充実に向け、災害に対する「自助」「共助」の考えを育み、体験的・実践的な防災教育を、防災委員会を中心に実施する。荒川区、水道局等の公共機関並びに地域の自治会等と連携した防災体制を構築し、活動する。

⑧ゴミの分別、美化清掃活動を徹底し、環境美化とリサイクル及び省エネ活動など持続可能な社会づくりを推進する。

【特別活動・部活動の充実】

①生徒がルールやマナーを守り、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるよう、全校集会等における整列指導や話を聞く態度の指導を行う。

②生徒の学校やホームルームへの帰属意識を高め、自主性を育成し、集団における自己の在り方を学び、確立するために、ホームルーム活動、生徒会活動、各種委員会活動を活発に行い、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」等の学校行事を充実させる。

③生徒に文化、スポーツに親しませ、豊かな人間関係を育むとともに、生徒の自主性や創造力を伸長するために、部活動への加入を促進するとともに、部活動指導員を積極的に活用し、地域と連携した部活動の一層の活性化を図る。

④生徒会活動・部活動等において、生徒が自らの可能性を見つけ出し、その伸長を図ることができる強い意思を持ち続けるよう継続的な指導を行う。

⑤在京外国人生徒とその他の生徒が、様々な活動を通じて、交流を深め、互いに日本語、外国語の言語能力を向上させる取り組みを部活動として行う。

【地域連携の充実】

①学校開放や地域の関係機関と連携し、生徒会や部活動単位等で地域行事等に積極的に関わろうとする意識を育むとともに、地域の人たちから信頼され、頼られる学校を目指す。

②防災訓練実施にあたり、関係諸機関、地域との連携状況を細部まで確認し、課題があればすぐに協議し、修正を加えることで、より安全安心な防災体制の構築を図る。

【学校経営・組織体制の充実】

- ①法規・法令、規定・規約、通達・通知等に基づいた学校経営を推進し、学校組織の機能を高め、生徒、保護者に充実した教育を提供できるようにする。
- ②各分掌、学年、教科の一層の連携強化を図り、PDCAサイクルを確立し、各事業の持続的な発展を目指す。
- ③TAIMS端末や教育用ICT機器等を有効に活用し、校務の効率化を一層推進するとともに、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、学校における働き方改革を推進する。
- ④グローバル社会に対応した校内研修を充実させ、国際理解を深め、教職員の人権意識等を高める。
- ⑤学校運営の成果と課題を把握するため、学校評価等における意見や感想を集計分析し、学校運営の改善に活かしていく。
- ⑥生徒、保護者、都民の信頼を損なうことのないよう教職員全員対象に服務事故防止研修を実施し、未然防止、体罰根絶に努める。
- ⑦経営企画室の学校経営参画を促進する。
- ⑧予算編成指針に基づき、効率的・合理的な予算執行を行う。
- ⑨学校運営連絡協議会の円滑な運営を行う。

(2) 重点目標と方策

- ①【学習指導】授業時数を確保し、基礎学力の確実な定着を行う。新学習指導要領に対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度に応じた適切な指導を実施する。部活動と同じように行なう「まな部」と名付けた講習や夏期・冬期講習を実施するとともに、放課後の日本語指導、学力向上研究校として取り組む外部指導者による放課後学習指導、さらに自主学習室の活用や保護者と連携した家庭学習の時間の増加など、進路実現に向けた学力の向上を図る。持続可能な社会づくりを推進する上で生じる様々な課題について、「人間と社会」を中心に体系的な指導計画づくりを行い、教科等横断的な視点による取り組みを実践する。相互授業見学の実施により、教員の授業力を高め、ICT機器を活用した主体的・対話的・深い学びによる授業づくりを目指す。国際理解教育の推進にむけ、TGGへの参加を行う（1学年）。在京外国人生徒の日本語指導の充実を図るため、7時間目、8時間目を設定し、学校設定科目での授業を行う。日本語指導及び各教科の習熟状況を外部の検査や模試を活用して定期的に把握し、指導内容の改善・充実を図る。
- ②【進路指導】3年間を見通したキャリア教育を策定、推進し、組織的・計画的に進路指導をすすめ、希望する進路実現に向けた指導の充実を図る。進路充実校を目指して進路部・学年が連携を密にし、学校全体で共通理解を図りながら取り組んでいく。「総合的な探究の時間」「人間と社会」を通じて、探究活動に取り組み、これからの社会において、生きる力を身に付け、進路実現を図るための基礎的、汎用的能力を高める。ハローワーク、大学、専門学校等から最新の情報を常に積極的に取り入れ、進路実現に向けた支援を組織的に実施する。同窓会や卒業生、外部の専門家やNPO団体等関係諸機関と連携し、キャリア教育の充実を図る。C l a s s iを活用することで、生徒、保護者と連携した進路指導を行う。
- ③【生活指導】生活規律、授業規律の向上を目指し、教職員が共通の認識を持ち、共通の基準で指導にあたる。基本的生活習慣の定着、遅刻指導、身だしなみ指導にむけ、生活指導部・担任・教科担任等全教員が連携し、常に生徒情報を共有しながら組織的な指導を行う。いじめ・体罰防止に向け、定期的に生徒からアンケート調査を実施し、未然防止・早期発見に努める。問題行動防止、犯罪被害防止、自殺予防、SOSの出し方等の指導を家庭と連携しながら、安全安心な学校づくりを行う。
- ④【募集・広報活動】中学生及び保護者が進路選択の参考となるよう、特色ある教育活動や授業の様子、部活動、新校舎等の情報をホームページ等、様々な方法を活用して情報発信を行う。学校説明会、中学校訪問、在校生による中学校母校訪問、塾訪問、外部での説明会等に参加し、本校への入学を強く希望する者の拡大に努める。
- ⑤【健康・安全】生徒の生命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。スクールカウンセラ

一を活用した学校全体の教育相談体制の機能を高め、生徒一人一人の状況把握に努め、きめ細かい指導を組織的に行う。配慮が必要な生徒の情報を全教員で共有するため、ケース会議や教員研修の充実を図るとともに、外部人材を活用した教育相談体制の強化、学校での生徒の居場所づくりを推進する。

- ⑥【特別活動・部活動】学校行事や委員会活動等において生徒が主体的に活動し、達成感や自己肯定感が得られるよう指導する。部活動への加入率を高め、学校生活の充実と、学校への帰属意識を一層高める。体罰根絶に向けた外部指導員も含めた指導者研修を徹底する。
- ⑦【地域連携】生徒会、部活動等の単位で地域行事に積極的に参加し、地域貢献に取り組む主体的な姿勢を育む。東京都水道局・荒川区防災課・荒川消防署や地域の自治会と連携した防災訓練等により、災害発生時に生徒、教職員の生命を守るために必要な行動を身に付けるための防災教育の充実を図る。学校施設開放を行い、地域に開かれた学校を目指す。
- ⑧【学校経営・組織体制の充実】更なる向上を目指す意識をもち、業務ごとに常に検証を行い、改善、工夫を行いながら、学校運営を進めていく。学校課題の発見、検討、問題解決の組織的な取り組みを素早く、強力に推進するため、主幹会議を定期的に実施する。ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、学校における働き方改革を推進するため、月1日以上を定時退庁日として設定するとともに、定時外在校時間の縮小、計画的な年休の取得を推進する。

(3) 数値目標 () 内は昨年度実績

《学習面》

- ・自習室の開室 常時開室(学校行事・考査等期間以外常時開室)
- ・まな部の実施 各学年7回以上(1学年7回 2学年12回 3学年10回)
- ・長期休業中講習 開校講座 20 延べ200時間以上500名以上
(教科14講座146時間 93名、日本語教室集中講座10時間 55名参加)
- ・生徒による授業評価における肯定的評価 85%以上(81.2%)
- ・図書館貸出冊数 1800冊以上(1756冊)
- ・資格取得準2級以上 20名以上
(14名 英検:6名 漢検:8名)

《進路指導面》

- ・4年制大学進学率 50%(46%)
- ・日東駒専以上現役合格 20名(16名)
- ・就職内定率 100%(100%)
- ・進路未決定者 8%未満(9%)

《生活指導面》

- ・年間遅刻30日以上 1年生 5%以下(18%)
2学年 5%以下(29%)
3学年 5%以下(24%)
- ・部活動加入率1学年 75%(72%)
- ・学校評価アンケート 地域の否定的評価 15%未満(15.2%)
- ・体罰 0件(0件)

《募集・広報活動面》

- ・ホームページ年間更新回数 250回以上(226回)
- ・学校説明会 5回(5回:996名)

・個別相談会	2回（2回： 80名）
・中学校訪問	110校（105校）
・塾訪問	35校（33校）
・中進対第1志望調査	1.70（1.68）
・入学者選抜応募倍率（学力検査）	1.70（1.61）
・文化祭来校者数	2000名（450名（中学生188名、保護者262名：人数制限実施）
・「竹台通信」発行	12回（12回）
・相互授業見学各学期1回以上	100%（100%）

《地域連携面》

・施設開放	10団体以上 10日（21団体 12日）
-------	----------------------

《学校運営・組織体制面》

・主幹会議	25回以上（24回 企画調整会議後に実施）
・電子起案の推進	99%以上（99%）
・センター契約	72%（72%）
・定時外在校時間	80時間越0名（5名）
・月1日以上 of 定時退庁	100%（実施）
・男性教職員育児休業取得率	50%以上（今年度設定）